


報道機関各位

かんしょの有機栽培に関する検討会を開催します

(いばらき農業アカデミー 令和5年度品目別先進農業技術講座として開催)



茨城県では、環境負荷低減と生産物の高付加価値化を両立する有機農業を推進しています。本県の青果用かんしょの産出額は全国1位ですが、有機栽培の技術は十分に確立されていないため、その取組は一部に限られています。

茨城県農業総合センター農業研究所では、かんしょの有機栽培の技術確立に取り組んでおり、今回、研究成果を生産者等に紹介し、意見交換を行うことといたしました。

つきましては、是非ご取材頂きたく、ご案内いたします。

【日時】 令和5年9月20日(水) 13:30~15:30 (受付開始 13:00)

【場所】 農業総合センター農業研究所(水戸市上国井町3402) 本館3階大会議室、所内ほ場
 受付場所: 本館(正門から入り、右手の3階建て建物) 3階大会議室

【参集範囲】 県内かんしょ生産者、農協職員、県普及指導員等

【内容】 1 室内検討(13:30~14:45)

- (1) 線虫^{*1}抵抗性を有する新品種「あまはづき」と緑肥^{*2}を用いた線虫対策
- (2) 家畜ふん堆肥を用いた施肥およびリビングマルチ^{*3}による抑草効果
- (3) 「あまはづき」の栽培および食味特性

2 ほ場検討(15:00~15:30)

かんしょ有機栽培試験ほ場の説明・検討

(※1~3については、次ページ参照)

☆当日は、ほ場検討も行うことから、暑熱対策の上、汚れてもよい履物・服装でお越し下さい。

☆雨天決行のため、雨具の持参をお願いします。ただし、荒天の場合は中止することもあります。

事前に下記【お問い合わせ】までご連絡下さい。

新品種「あまはづき」について



(写真は焼き芋)

(国研)農研機構が開発した新品種で、早期に収穫でき、食味は収穫直後から糖度が高く、肉質がねっとりしている。

「あまはづき」の線虫被害に対する抵抗性について



(あまはづき)



(ベニアズマ)

線虫が多発するほ場で栽培・収穫されたイモの形状。
 写真左: 新品種「あまはづき」は外観品質が良好。
 写真右: 既存品種「ベニアズマ」は線虫の被害により形状が大きく変形し、外観品質が低下。

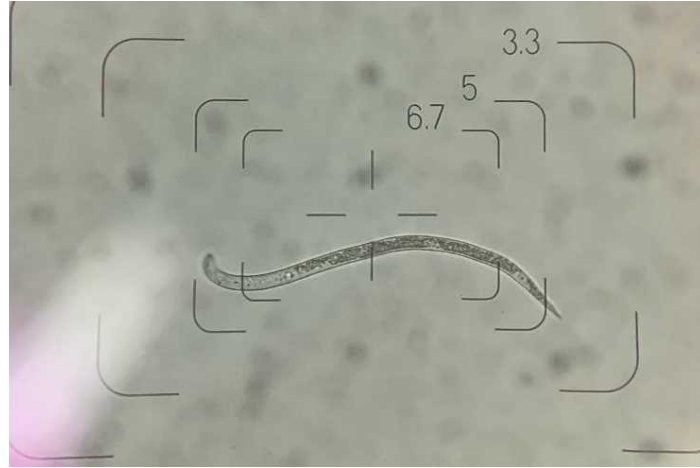
【お問い合わせ先】

茨城県農業総合センター農業研究所 担当: 研究調整監 中村憲治

TEL: 029-239-7211、E-mail: ke.nakamura@pref.ibaraki.lg.jp

※1 線虫（センチュウ）

線虫（センチュウ）は体長1mm程度の非常に小さな生物で、中には農作物の根に寄生して生育不良や、収量・品質を低下させるものがあります。サツマイモネコブセンチュウが、かんしょの栽培で問題となっています。



写真：サツマイモネコブセンチュウの顕微鏡写真
(写真中央の細長い生物)

※2 緑肥

生育途中に土へすき込むことで、肥料として利用することができる、主にイネ科やマメ科の植物です。緑肥の中には、線虫などの土壌病害虫の密度を低下させる効果を持つものがあるため、本研究ではその効果に注目しています。

※3 リビングマルチ

作物の畝と畝の間で、麦類やマメ科植物など、他の作物を栽培することをリビングマルチといいます。雑草の発生を抑制するほか、ほ場の土壌流出防止、土壌水分を保持する効果があります。



写真：かんしょ栽培でのリビングマルチ
(左：テフグラス、右（手前）：マリーゴールド)